

基本高水について

【基本高水とは】

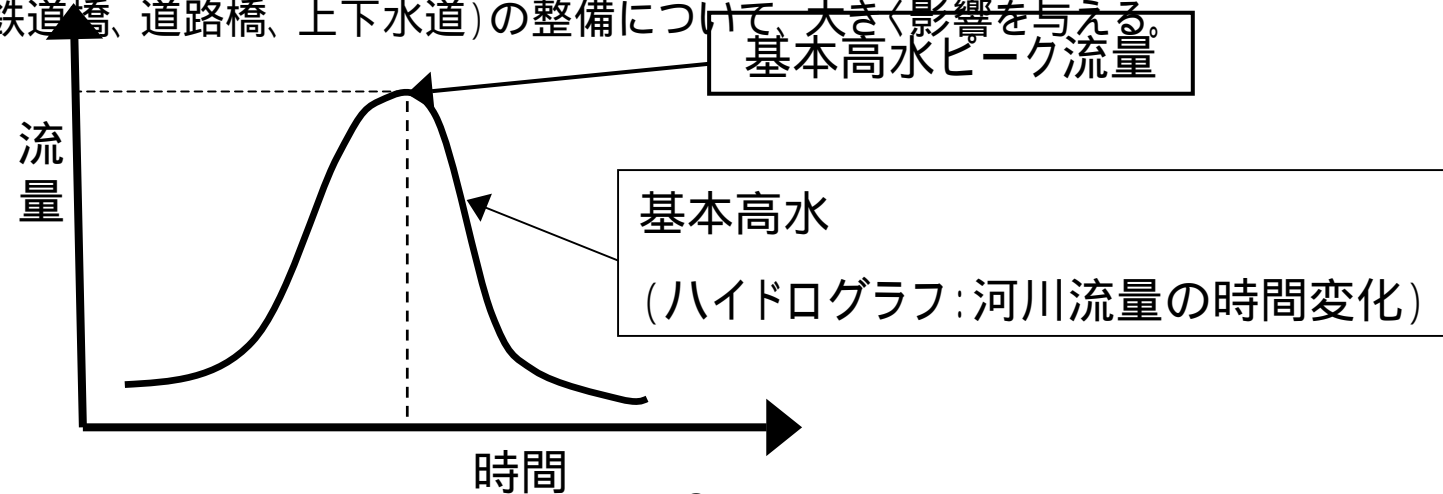
基本高水は、流域に降った計画規模の降雨がそのまま河川に流れ出た場合の河川流量の時間変化を表したもの。(ダムや遊水地などの人工的な施設で洪水調節が行われていない状態)

計画規模: 河川の重要度、既往洪水による被害の実態、経済効果等を総合的に考慮して定める。

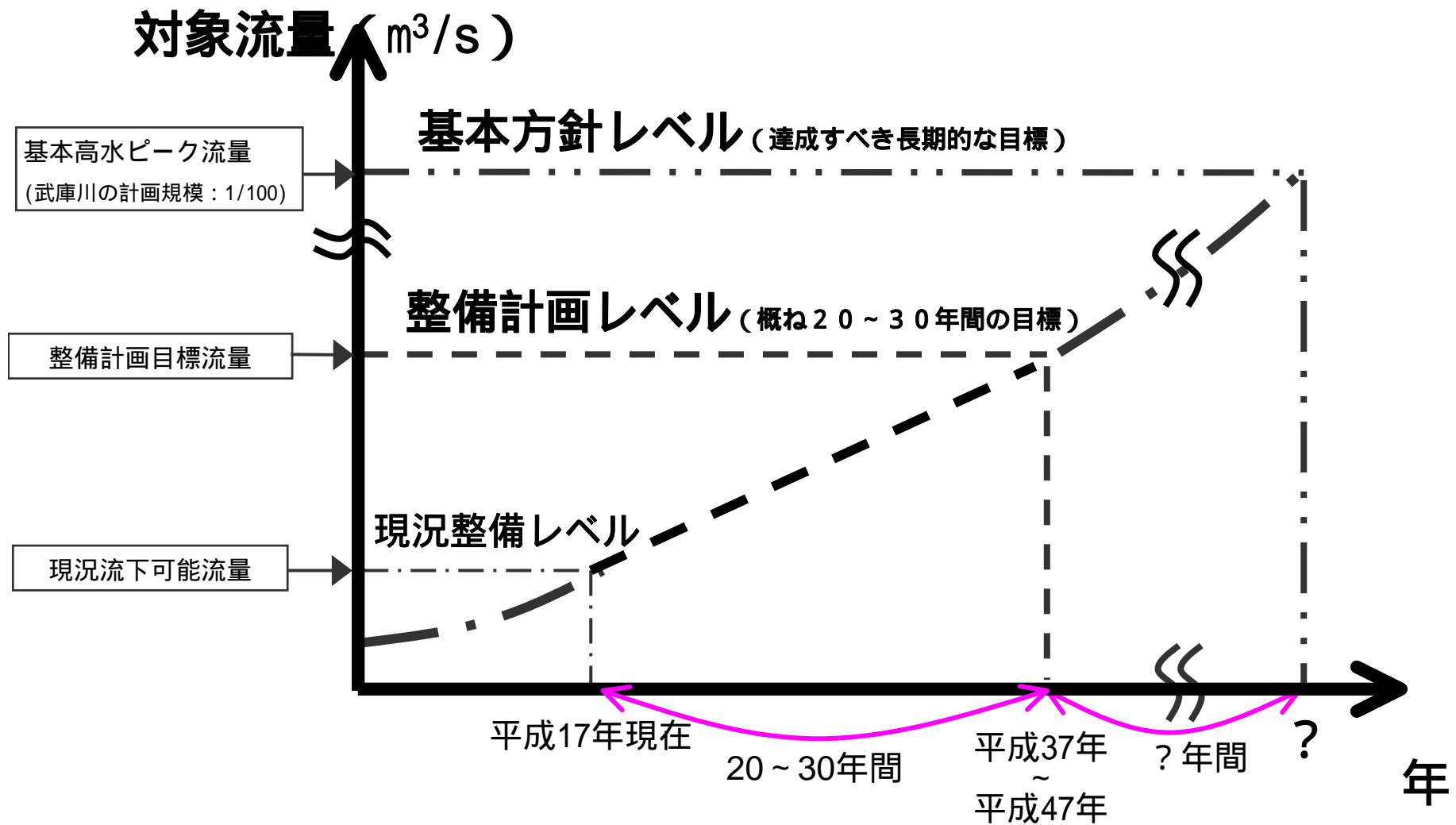
武庫川: 1 / 100

基本高水及び基本高水ピーク流量は、河川整備基本方針、河川整備計画の治水対策策定の基本となる。

基本高水は、河川整備基本方針において設定され、これに基づき、将来の川幅や高水位を定めることとなっている。そのため、将来の川幅等に基づき計画される河川を横断する構造物等(鉄道橋、道路橋、上下水道)の整備について、大きく影響を与える。



河川整備基本方針と河川整備計画の関係



【基本高水設定の県の考え方】

県としては、棄却基準を適用する手法の採用を考えている。

(考え方)

県下の主要河川で採用

多くの降雨パターンを活用(計算技術の発達により多数の計算が可能)

引き伸ばし後の極端に偏った降雨パターン(時間的、地域的)は棄却

棄却後の降雨パターンによる基本高水ピーク流量の最大値を採用

最大値採用の理由

洪水は自然現象である降雨に起因しており、極めて不確実性の高い事象である。

現実に起こり得ない降雨を棄却した後の降雨パターンは、十分発生しうる可能性があるため。

武庫川下流部は、天井川となっているため、万が一破堤が生じた場合は人口密集地を控えていることから、甚大な被害が発生する危険性があるため。

なお、設定1の手法は、異常降雨を棄却する手段が整っていなかった当時に用いられた手法であり、全国的にも現在採用されていないため、県としても採用は考えていない。